

学びのエリアにおける区立幼稚園と小学校の合同事業の取組について（報告）

1 概要

「高島なかよし通り学びのエリア」は、近接して小学校、中学校とともに区立高島幼稚園がある。学びのエリアの活動として、幼稚園の5歳児クラスと小学校第1学年児童の交流活動が行われたので、次のとおり報告する。

2 実施日程

令和4年4月26日（火） 午前9時40分～10時20分

3 場所

板橋区立高島第二小学校 校庭

4 実施内容

近接する区立高島幼稚園の5歳児クラス（ひまわり組）の幼児19人が、高島第二小学校を訪れ、第1学年1組児童（19人）と教員等の指導のもとで、およそ1時間の交流活動を行った。

（交流活動の様子）



お互いのあいさつ



バナナ鬼（鬼ごっこ）



だるまさんがころんだ
（奥の樹はシンボルツリーのメタセコイア）

5 活動状況

【幼児の活動から】

- ・ 幼児は、園庭よりも広い校庭で思い切り走り、様々に体を動かして、発達に即した必要な体験を得られる。
- ・ 小学生との交流を通して、小学生に親しみやあこがれの気持ちを持ち、小学校生活を楽しみにするなど、就学への期待が増し、接続が円滑になる。
- ・ 交流を繰り返し行う際に、互惠性のある交流を目指すことで、双方にとって意義のある交流となり、子どもたちの成長に欠かせない体験となる。
- ・ 幼児には、自分たちがしてもらって嬉しかったことを自分が小さい子にしてあげようとする気持ちがもてるように助言を行い、様々な感情を体験することができ、心豊かになる。

【児童の活動から】

- ・ 児童は小学校に入学したことで、これまで最年長だった立場から、最年少の立場へと環境が変化し、戸惑いを感じている児童もいる。しかし、幼児と交流することで、自分たちが年長者として活躍してきたことを思い出し、今後も自信をもって生活できるきっかけ作りとなる。
- ・ 活動は、幼児が入学を控えた3学期からだけではなく年間を通じて行い、小学校に親しみを感じるようになり、小一プロブレムの解消にもつながる。
- ・ 交流活動は、毎月1回程度を予定している。なお、第1学年2組の児童は、隣接する区立高島平つばみ保育園の幼児との交流活動を予定している。

その他、近接する立地を生かした活動が継続的に実施することにより、幼児と児童の交流とともに教員同士の交流や情報交換もできる。